

当診療所における実態調査

市川 弘道¹⁾・小野田 守¹⁾・風間 敏禎¹⁾・
 鐘ヶ江 稔¹⁾・湯浅 清一¹⁾・野村 良二¹⁾・
 中村 美紀¹⁾・呂 英美¹⁾・松村 東栄¹⁾・
 大倉 公一¹⁾・石川 裕子²⁾・山崎 統資³⁾・
 芳賀 定⁴⁾・美浦 一郎¹⁾・知野 彰一¹⁾

1)東京都目黒区歯科医師会、2)八雲あいアイ館歯科診療所、3)東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科障害者歯科学分野、4)芳賀デンタルクリニック

緒 言

目黒区歯科医師会障害者歯科診療所・八雲あいアイ館歯科診療所(以下当診療所)は2001年4月の開設以来、会員診療所及び高次医療機関との医療連携に基づいて診療を行ってきた。歯科診療は週2日半日ずつ、口腔衛生指導・予防処置が週3日となっている。今回、開設から4年目を迎える当診療所が、地域障害者歯科医療の中でより一層貢献するために、現在までの患者の動態を調査した。

対象と方法

当診療所の受診対象者は、目黒区在住在勤及び在学者で、障害者手帳または愛の手帳を有する障害者(児)である。2001年4月から2004年3月までの3年間に当診療所を受診した患者を対象とし、診療録より性別、初診時の年齢、障害の種類・程度、歯科治療歴、来院動機、来院経路、転院・紹介先など患者の実態と動向について調査した。

結 果

調査対象患者数は男性67名(61%)、女性43名(39%)であった。初診時年齢は2歳より87歳までであった(表1)。障害別初診患者数は発達障害が78名(71%)、中途障害31名(28%)、その他1名(1%)であった(表2)。また、3年間の延べ患者数は1,673名であった(表3)。歯科治療歴は103名(94%)が歯科治療を経験していた。来院動機はう蝕治療が55名(46%)、予防・健診が28名(24%)、歯周病治療が16名(13%)、その他20名(17%)であった。来院経路は直接来院が67名(61%)、施設からが19名(17%)、医療機関からが18名(16%)、友人・知人からが6名(5%)であった。

また、当診療所からの紹介先は1次医療機関6名、2次医療機関1名、3次医療機関10名であった。

考 察

当診療所の初診患者数の推移は2001年度が49名(45%)

で最も多く、以後31名、30名であった。年齢別の推移に大きな変化は見られず、20~29歳が26%で最も多かった。来院動機はう蝕治療が最も多く、今後は治療から予防・健診への移行を推進するための啓発が必要である。来院経路では、直接来院・施設からの紹介が80%を占めている。また、友人・知人からの紹介は2002年度のみであった。医療機関からの紹介は16%であった。年度別では、2001年度は1次医療機関からが5名であったが2002・2003年度は各1名であった。今後より多くの障害者(児)に当診療所を利用してもらうために、区民・施設への一層の情報提供、予初診患者の受け入れ態勢の整備が必要である。さらに、医療連携の充実を計るため、当診療所と会員診療所および高次医療機関との連絡を密にする必要があると思われる。

表 1 年齢別初診患者数(名)

	2001年度		2002年度		2003年度		計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
0~9歳	4	1	2	1	4	1	10	3
10~19歳	6	1	3	1	1	1	10	3
20~29歳	10	5	5	2	4	3	19	10
30~39歳	4	2	2	4	4	2	10	8
40~49歳	1	5	3	1	0	1	4	7
50~59歳	2	3	3	1	1	1	6	5
60~69歳	1	1	1	0	3	2	5	3
70歳~	1	2	1	1	1	1	3	4
計	29	20	20	11	18	12	67	43

表 2 障害別初診患者数(名)

	2001年度	2002年度	2003年度	計
精神発達遅滞	13	9	8	30
自閉症	10	3	4	17
ダウン症	3	2	2	7
てんかん	2	3	1	6
脳性麻痺	8	6	4	18
内部障害	7	2	3	12
四肢体幹障害	6	5	8	19
視覚障害	0	0	0	0
その他	0	1	0	0
計	49	31	30	110

表 3 延べ患者数(名)

2001年度	2002年度	2003年度	計
438	602	633	1,673

ま と め

今後の課題として以下の項目が挙げられる。

- 医療連携の充実
- 治療から健康増進への移行
- 区民・施設への情報提供